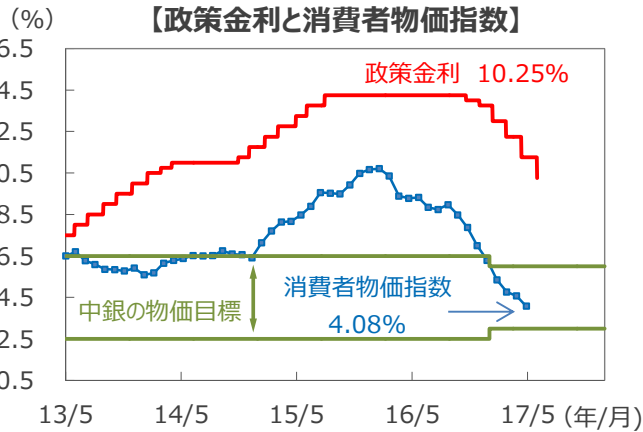


今日のトピック ブラジルの金融政策 (2017年5月)

1.00%利下げ、今後も利下げが続く見込み

ポイント1 政策金利を1.00%引き下げ 前回会合に続く、大幅利下げ

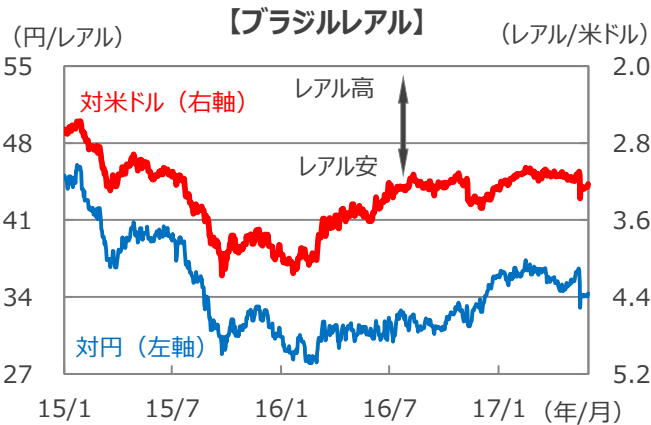
- ブラジル中央銀行 (以下、中銀) は、5月31日の通貨政策委員会で、政策金利を1.00%引き下げて10.25%とすることを全会一致で決定しました。前回会合 (1.00%利下げ) に続く大幅な利下げとなりましたが、概ね市場予想 (ブルームバーグ集計) の通りでした。これにより、昨年10月以降の利下げ幅は累計で4.00%となりました。



(注) 政策金利は2013年5月1日～2017年5月31日。消費者物価指数は2013年5月～2017年4月。中銀の物価目標は年率+4.5%で、レンジは2016年末までは±2%、2017年は±1.5%。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 年内は利下げが続く見込み インフレの鎮静化傾向が続く

- 中銀は声明文で、最近の物価動向は好ましいと評価しています。4月の消費者物価指数は前年同月比で+4.08%と一段と鈍化し、インフレの沈静化傾向が続いています。
- 中銀は、物価の予想調査などに基づく、2017年は前年比+4.0%、2018年は同+4.6%と、中銀の物価目標レンジ (同+4.5%±1.5%) に収まると見えています。また、こうした物価予想から当面は利下げが続き、2017年末の政策金利は8.5%まで引き下げられ、2018年末までその水準が続くと見られています。



(注1) データは2015年1月1日～2017年5月31日。
(注2) (レアル/米ドル) は逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政治に先行き不透明感、 レアルの不安定要因に

- ブラジルでは、2016年5月のテメル政権誕生以来、経済・財政改革や、インフレ率のめざましい低下が進み、通貨レアルも堅調に推移してきました。しかし、足元ではテメル大統領に辞任・弾劾の可能性が浮上し、政治に先行き不透明感が出てきています。このため、財政再建や年金改革などが滞る恐れもあり、利下げはこれまでより緩やかなペースになると見込まれます。また、今後は政治リスクがレアルの不安定要因となりそうです。

ここもチェック! 2017年5月19日 テメル・ブラジル大統領に辞任・弾劾の可能性が浮上 2017年4月13日 ブラジルの金融政策 (2017年4月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。